

入会のしおり

しらびそ山の会
2012.10

付録

- 入会申込書
- 山行届用紙
- 会員名簿
- 役員体制表
- 遭対説明書・申込書
- 事故発生時連絡表

はじめに

しらびそ山の会に入会されるあなたを、会員一同、心から歓迎すると共に、これから登山や会活動を通じて、親しい仲間として長く付き合えることを期待します。あなたに、一日も早く、しらびその仲間と、その活動について理解を深めてもらうために、この「しおり」を送ります。

会の紹介

当会の正式な名称は、『茅野勤労者山岳会 しらびそ山の会』と言います。

(通称は茅野労山 しらびそ山の会、あるいは、しらびそ、)

当会は1975年の秋、10名程の仲間によって結成されました。

30年の期間、会員数は増減しながら、現在は、15名程です。

会員の年齢層は、20代から60代、職業も多彩です。

この会は、結成当時は山行経験者が少なく、会員のほとんどが登山は始めて、という人達でしたから、山行もごく初歩的な技術習得に、重点がおかれてきました。

現在では技術的にもかなり向上し、山行形態も多様化してきています。

各種のハイキング、尾根歩き、ヤブコギ山行、岩登り、冬山登山等があります。

そして、会の中心的な山行は、夏の沢登りです。

一般的には、初級者はハイキングや登山道の尾根歩きから始めるのですが、当会のようにそれほど山キチでもなく、社会生活上でも、山行日数があまりとれない会員が多いと、わずかな山行日数のなかで、出来るだけ多くの技術を習得しなくてはならないと同時に、その山行の中でも楽しめる、ということが重要な課題になってきます。

この欲張った要求を満たしてくれる場所と山行形態が沢登りにあります。

当会が、沢のぼりを中心に活動し始めた頃は、今のように沢登りが一般化していなくて、ちょっと白い眼で見られるような状況でした。

先にも述べたように、当会の会員構成がほとんど新人であったために、良い面としては、旧来の伝統的な日本の山岳会のありかたにとらわれず、自由な発想のもとで会を作っていくことができた事、また、よくありがちな、あまり山へ行けない人や、体力の弱い人が会に出にくくなるということがなく、むしろ、そうした会員に皆が合わせて行くという基本姿勢が育っていったことです。

現在でも、会の基本姿勢は『安く、楽しく、安全に』そして『より弱い、より困難な立場の会員に合わせた活動』です。

会の組織

会長の下に運営委員会があります。

運営委員会は、リーダー部長、機関紙部長、県連理事、事務局、で構成されます。

この下に各部があります。

- リーダー部 会及び個人の山行に、全責任をもつ
山行届けのチェック、助言
共同装備の管理
遭難対策（補助機関として遭対メンバーがある）
技術教育の学習会、訓練山行の企画
- 機関紙部 会報「しらびそ」の発行
- 事務局 山行以外の事務、財務を行なう
会活動の管理を行なう
- 県連理事 長野県連盟の理事会で全体での活動などを決定する
- 自然保護 自然を守るためのあらゆる活動の中心となって活動する

山行

会の山行(例会山行)は、原則として月 1 回、年間数回は、泊まりの山行があります。この他に、各部の計画する訓練、学習の山行があります。

例会山行には、できるだけ積極的に参加して下さい。

また、例会山行と個人の山行をダブらせないように例会山行を優先して下さい。

個人山行は、事前に(最低 1 週間前)山行届けをリーダー部に提出し、計画のチェックと許可を受けて下さい。届出用紙は会にあります。

山行計画の中では、必ず、不参加の会員に留守本部を依頼し、下山時には連絡をして下さい。また、後日、山行報告書を会に提出して下さい

山岳遭難保険(労山遭対基金)に必ず加入して下さい。

-----用語説明-----

茅野勤労者山岳会	当会は結成の翌年、日本勤労者山岳連盟に加入しました。 この下に、長野県勤労者山岳連盟があり、17 労山 500 名の仲間がいます。各会独自の活動と共に全国、県連、南信ブロック等の行事も行なわれます
沢登り	普通、尾根や、縦走など、登山道のある所を歩きますが、沢(川の上流)を登って稜線(頂上)に出る事です。「沢をつめる、という」地形判断、地図の使用、進路判断、ザイル、岩登り等、の技術習得には最適です。それと、沢の上部は、高山植物のお花畑が多く、登山道では味わえない感激があります。
ヤブこぎ	沢のツメ、あるいは、道のない山などで「ヤブをかき分けて登る」という意味で、登山の原点です。
山行届け、報告書	末尾参照。
共同装備	テント、火器、用具を会で持っています。会員はこれを借りることができます。
個人山行	会員が各自計画する山行で、参加は自由です。
留守本部	山行時に一定の時までに帰着の連絡が無いときは、留守本部から遭対メンバーに連絡し、救援体制をつくります。
遭対基金	労山一年間 1 口 1000 円、の掛け捨てですが、山行時の遭難、負傷等で支払われます。(山行届けの提出などの審査があります)

会活動

しらびそデー 毎週火曜日に、各部の主催する学習会や山行準備会、その他、会員個人から出された話題等で話し合いをします。

しらびその活動の中で最も日常的、且つ基礎的な活動です。

入会金・会費 入会金は2,000円です。尚、退会されてもお返ししませんのであしからず。

会費は、正会員、年間10,000円、半期5,000円です。

会の財政は、この入会金と会費によって全て賄われます。

(全国、県連盟費、活動費、共同装備購入等)

-----会名「しらびそ」について-----

会名のしらびそは、漢字では『白桧曾』と書きます。

松科の常緑針葉樹で、南は大峰山系から、北は福島県まで分布している高山の高木です。

八ヶ岳は、特にこの本が多く、亜高山帯の針葉樹の80%以上はこのしらびそです。

クリスマスにはよく、もみの木として使われます

この名は、古く平安時代、角材にしたときの木の肌が、真っ白であることから付けられたといわれます

八ヶ岳を代表する木・・・しらびそ・・・というわけです。